



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く10時～16時
Web URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

たのくろ豆の花が咲き始めました(奥は本田)8/20撮影

実りの秋も、もうすぐ！



豆の花



放射線量測定を定期的に行っています

盛夏の猛暑と、その後の大量の雨のおかげで、農作物はみごとに実っています。山崎伝来の種を受け継いでいる「たのくろ豆」を味噌にするのは、当会農芸班の技です(特集2p参照)。大豊作が予想される谷戸米も、いもや豆も、収穫まであと数か月無事でありますように。(米は放射線量計測を予定しています)



もくじ

- ☆特集・農芸班→2p
- ☆谷戸往来→3p
- ☆各班からのお知らせ→4p
- ☆谷戸の自然だより→5p
- ☆谷戸の体験学習→6・7p
- ☆9～11月の日程表(裏表紙)

谷戸と農芸Q&A

Q・農芸班って どんな班?

主に、畑班が丹誠込めて育てた野菜・豆類を保存食にしたり、保全作業で生じた自然素材を昔ながらの手作業でシンプルに加工します。

難しく手間がかかると思われがちな保存食作りですが、作ってみると意外に簡単なので、ぜひご自宅でも楽しんでいただきたいと思います。季節ごとの資源を無駄なく上手に使う、手作りのよさや楽しさを再発見できる活動がいっぱいです。



今年の梅干し作りの様子



たくわん漬け

Q・どんなものを作っているの?

今年は梅干し、らっきょう漬け、たくわん、たのくろ豆を使った味噌作り、小麦・そばの製粉、草木染め、藁細工などをします。これまでに綿や藍を育て、糸紡ぎ、リース作り、藍の生葉染め、竹細工、つる細工もしました。味噌作りに欠かせない糀を、谷戸米に糀菌を混ぜて手作りした年もあります。たのくろ豆・小麦の選別も地味で根気がいりますが、大切な作業です。

Q・作った食品はどうするの?

作業後の試食、食マークの日の食材、年2回行われる「谷戸まつり」のときに頒布をしています。小麦粉はミネラル豊富な「ふすま」の入った全粒粉として、谷戸の太陽をたっぷり浴びた真っ赤な梅干しと共に好評です!



藍の生葉染め 素敵な作品が出来上がりました

谷戸まつりの様子



～参加者の声～ ★今年の梅干し作りでは 収穫、塩漬け、しそ漬け、そして天日干しの作業にも参加させていただきました。春の終わりから 夏にかけての作業では季節の移り変わりをこちよく感じながら自然の恵みをありがたく思い、手間隙かける大変さと楽しさを思いました。<富田昭子> ★会の発足当初から農芸班で活動している。当初は、収穫物や副産物は皆さんの努力の結晶だと思つてモットイナイ精神も大きく働き、「農家の方はこまでするのかしら?」と思うくらい

無駄に動いた時もあった。その後、色々試しながら、効率だとか潮時だとかも、いい塩梅を身に付けて(?)ここりのやり方を熟成している。昔ながらのやり方と言ったって家の数だけありそうな気がする。まだまだ試せることはあるだろうし、谷戸で楽しめそうな新しいアイデアも吹き込んでくれる参加者や新メンバーはありがたい。<土方 恵>



谷戸往來 谷戸往來 谷戸往來

鎌倉市公園協会共催「子どもお泊り里山体験」の報告 7/31(日)~8/1(月)

今年で5回目、参加は小学4~6年生21名。小雨の中、竹を切り、夕食用の器と箸を作り、かまどで火を起し、谷戸のお米、小麦、野菜を調理しておいしくいただきました。個性あふれるかかしも作り、田んぼに立てました。夜はヘイケボタルの観察、「昔の子どもの遊び・こわい話」を地元の方から聞きました。身近な里山の生活に触れ、静かで暗い谷戸に泊まり、雨をかわしながらの1泊2日の体験でした。★竹で器とはしを作って楽しかった。今度はたくさん作りたい。(M・I)★川上さんに竹笛を作ってもらい、うれしかった。自然があるとおもちやもつくれるし、自然は大切にしようと思った。(M) ★夜のお話がこわいところもあったけど、おもしろい話もあったから楽しかった。(K・Y)



今年も、山崎の夏まつりの担ぎ手として大活躍 7/24(日)

今年も、山崎地区の夏まつりで、当会から9名の男性陣が担ぎ手として活躍しました。初参加の方の感想を紹介します。★我を忘れて、声を上げ、担ぎ手達と一つになって御輿を担ぎ、町内を練り歩くことで、神と人、その土地、まわりの方のすべてがつながり、ひとつになる、そんな感覚を味わえた様な気がします。山ノ内の御神輿と山崎の御神輿が途中で出会い、夫婦御輿になり、山崎の御神輿には腹帯がまかれる場面は何とも言えず、感動的でした。そして、飲食物をご用意頂いたり、祭りをサポートして下さる皆様の善意に支えられ、この行事が支えられてきたことに敬意を表すると共に、これからもこの神事が続いていくことを切に願います。(田村英和)



被災者支援活動の一環として

東日本大震災の被災者が西ヶ谷団地に現在18世帯避難されています。孤独対策や心のケアになればと、柞の森音楽祭実行委員が中心となり地域のボランティアの方や民生委員が、毎週火曜日に交流会を開き、昼食を提供されています。

この度、その交流会の昼食に当会が誇る農産物のじゃがいも10kgと米35kgを寄付しました。被災者の皆様が当会の温かい心に触れ、とても感激されたとのことでした。

私たちの日ごろの努力がお役に立ち幸いです。

助成金が決定!

(財)かながわトラストみどり財団「森林及び里山における活動支援事業」の助成金交付が決定しました。雑木林管理作業の器具整備などに運用します。安全で確実な作業を心がけて活動に活かしていきます。

各班からのお知らせ



田んぼ班 ★18 (日) すがい作り・はさ設置場所の草刈り ★24(土)、25 (日) はさ作り

暑い盛りに毎週行なった田の草取り。田んぼ班の皆さんが愛情込めた作業の成果が実り、見事な稲に成長しています。吹き渡る風に波打つ稲の様は涼しげで美しく、うれしくなります。8月2週にはほとんど出穂、開花しました。収穫まで最後のひと月「がんばってね！」



畑班 ★4 (日) 大根の種蒔き・耕し

★11(日)たまねぎ・にんじん・かぶの種蒔き

★18 (日) 草取り・草刈り・耕し

★25 (日) 冬菜の種蒔き



今年の夏は雨が少なかったせいか、畑の作物の中には成長が遅れているものもありますが、たのくろ豆は青々と葉を茂らせ、落花生の鮮やかな山吹色の花や、ごまの薄桃色の可憐な花などが谷戸の畑に彩りを添え、実りの秋が楽しみです。谷戸の畑に涼風が吹き始めると、冬野菜の作付けの準備を始めますが、大根やにんじんなど、どの作物も土作りが大事ですので、しっかり耕やさねばなりません。初めは使い慣れない鍬も、だんだん手に馴染んでくると、この地道な作業が楽しくなってくるのです。ぜひご一緒にいかがですか。



雑木林管理班

★9/4 (日)、11(日)下草刈り ★18 (日) 畑周辺の草刈り

★19(月・祝)雑木林の下草刈り

再び盛り返してきた猛暑の中、草刈り作業中です。生態系保全班と連携し、土手の保護や、生物多様性を考慮した作業を実施しています。先日、有志メンバーが刈り払い機・チェーンソーの講習会に参加しました。今後の作業の安全確保に活かしていきたいと思います。



自然遊び班

★9/18 (日) こども里山一日体験 「草木染め」

谷戸で育った藍の生葉で染め物を作ります。小さなお子さんでも大丈夫。模様入りの自分の染め物を作ってみましょう。

谷戸の自然だより ～真夏～

早めに梅雨明けした後、記録的な猛暑と水不足が続きました。この夏はやっかいな外来生物の浸入に悩まされています。田んぼにアカウキクサ（アズラ・クリスタータ）が浸入してしまったのです。

驚異的な繁殖力で水面を埋め尽くすように広がるので、他の水生植物や生きものなど生態系に大きな被害が出る可能性があります。すでに市内の池や田んぼでも急激な増殖が深刻になっており、駆除対策に苦慮している状態です。谷戸では、最初は特定の区画だけだったものが、一気に全域に広がる恐れが出てきました。その他、中国産のガビチョウという鳥が数を増やしており、派手な鳴き声をあちこちで耳にするようになりました。同じく中国産のアカボシゴマダラという美しい蝶が増え、今やどこでも目にします。生態系への影響はまだ分かりませんが、よく目立つ生きものだけに、谷戸の自然の印象に与える影響は大きいです。両種ともに飼育されていたものが野生化して広がったようです。

～ カマキリ ～

オオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ、ヒナカマキリ、あなたは幾つ知っていますか？ 谷戸では**ヒナカマキリ**以外はごく普通に見られます。虫に詳しい男の子なら、はじめの3つくらいは知っているでしょう。でも**チョウセンカマキリ**は**オオカマキリ**と姿がそっくりなので混同されているようです。谷戸の場合、田んぼにいるのは**チョウセンカマキリ**、それ以外は**オオカマキリ**がほとんどのようなのです。**チョウセンカマキリ**の卵はあちこちで見かけるのに、なぜ田んぼに集まってくるのか？なぜ棲み分けているのか？不思議です。

オオカマキリは水が苦手？ **チョウセンカマキリ**は**オオカマキリ**より少し小さいので、競争を避けるために田んぼに棲み着くようになった？など、いろんな想像がふくらみます。

田んぼに行ったら、スマートな体型のカマキリをつまみあげて対面してみましょう。前足（カマ）付け根に朱色の点があれば**チョウセンカマキリ**、黄色い点だったら**オオカマキリ**です。

谷戸で見られる
カマキリ一覧表

	大きさ	色	生息地
オオカマキリ	75ミリ～90ミリ	主に緑色	草地、林のへり
チョウセンカマキリ	65ミリ～80ミリ	主に緑色	田んぼ、草地？
ハラビロカマキリ	50ミリ～70ミリ	主に緑色	林のへり、樹上
コカマキリ	45ミリ～60ミリ	主に茶色	草地
ヒナカマキリ	20ミリ	主に茶色	暗い森の落葉の上



生態系保全班 ★野草畑の手入れ 9/21(水)

田畑のある谷戸は鳴く虫の宝庫です。コオロギやキリギリスの仲間の音を聞きます。



植物育成班 ★秋の虫の音を聞く 9/4(日) ★モニタリング1000センサーカメラ設置 7(水)

環境庁の調査に毎月協力しています。散策しながら咲いている植物を記録します。

ホテルのお礼

今年も、多くの会員や一般の方のご協力により、ホテルパトロールを終えることができました。どうもありがとうございました。

私達はこれからも、谷戸保全活動を通して、ホテルなど貴重な昆虫が棲み続けられる環境を守っていきたいと思っています。

